

再評価結果（令和3年度事業継続箇所）

担当課：都市局街路交通施設課
担当課長名：中村 健一

事業名	連続立体交差事業 東武鉄道伊勢崎線（とうきょうスカイツリー駅 付近）		事業 区分	連続立体交差	事業 主体	墨田区
起終点	自：墨田区押上二丁目 至：墨田区向島一丁目			延長	0.9km	
事業概要	東武鉄道伊勢崎線の曳舟駅～とうきょうスカイツリー駅間約0.9kmにおいて、鉄道を高架化することにより、1箇所のボトルネック踏切（伊勢崎線第2号踏切）と1箇所の既存立体交差道路（言問通り）を拡幅し、都市内交通の円滑化を図るとともに、分断された市街地の一体化による都市の活性化を図る事業である。					
平成29年度事業化	平成27年度都市計画決定	用地買収なし	平成29年度工事着手			
全体事業費	313億円	事業進捗率	35%	供用済延長	0km	
計画交通量	54,838台時/日（踏切交通遮断量）					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.1 (残事業) 1.3	総費用 (残事業)/(事業全体) 202/244億円 事業費：202/244億円 維持管理費：—億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 281/281億円 走行時間短縮便益：275/275億円 走行経費減少便益：7/7億円 交通事故減少便益：-1/-1億円	基準年 令和2年		
感度分析の結果	(事業全体) 交通量：B/C=1.04~1.26(交通量 ±10%) (残事業) 交通量：B/C=1.26~1.52(交通量 ±10%) 事業費：B/C=1.04~1.28(事業費 ±10%) 事業費：B/C=1.26~1.54(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=1.04~1.06(事業期間+20%) 事業期間：B/C=1.26~1.28(事業期間+20%)					
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> ・ボトルネック踏切の除却により、渋滞及び踏切事故のリスクを解消する。 ・踏切除却に併せて鉄道を高架化することにより、南北の地域分断を解消する。 					
関係する地方公共団体等の意見	—					
事業評価監視委員会の意見	事業継続を承認（令和2年10月19日 東京都建設局令和2年度第3回事業評価委員会）					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	—					
事業の進捗状況、残事業の内容等	上下線の仮線切替が完了（R2.3）、鉄道高架橋築造工事（R2.4～）					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	工事は順調に進んでおり、概ね順調な進捗が見込まれる。					
施設の構造や工法の変更等	—					
対応方針	継続					
対応方針決定の理由	事業の必要性、重要性に変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。					
事業概要図						

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。